

1 研究の背景と目的

生徒の英語によるコミュニケーション能力を育成するためには、英文を読んで理解する指導をする際にも、リーディングのスキルだけではなく、他の技能もバランスよく取り入れた指導をする必要がある。そのためには、英文を読む際に、各パラグラフのトピックやアウトラインを意識した読解活動を行い、読みとった英文の要約文を書くという、リーディングからライティングにつながる指導をするのが効果的ではないかと考えた。要約文を書く活動は、内容を理解した上で大切な情報を整理することであり、その内容に対する自分の考えを明確にする活動の前提となる。つまり、英語で発信するための準備段階の活動ととらえることができ、コミュニケーションに必要な理解力、表現力を築く活動として有効ではないかと考えた。

2 研究仮説

2.1 仮説 1 英文を読解する際に、各パラグラフの主題を把握し、5 W 1 H の疑問文を作成して答える活動を行えば、文章の概要を捉える力がつくであろう。

生徒にパラグラフ単位で読む指導をし、トピック・センテンス、サポート・センテンス、具体的事項を識別する練習を行う。論理展開を示す接続表現にも触れて、生徒の視点が一文からパラグラフへ、そして文章全体へと向かうように指導する。その後、生徒が5 W 1 H を用いた疑問文を作成して自らそれらに答える活動を取り入れれば、文の要点や問題点に気づくことができ、概要を捉える力がつくものとする。

2.2 仮説 2 内容を理解した英文の要約文を書く活動を段階的に指導することにより、初見の英文の要点を把握する力がつくであろう。

内容を理解し、要点を捉えることのできた文の要約文を書くことはそれほど難しいことではないことを理解した後、文と文を論理的につなぐ言葉、パラグラフ間の論理展開を示す接続表現に注意を向けることによって、教科書の英文や初見の英文の要点をまとめる力をつけることができるものとする。

3 研究計画

対 象 平成 2 0 年度 第 1 学年理数科 1 クラス (39 名)

平成 2 1 年度 第 2 学年理数科 1 クラス (40 名)

教科書 Pro-Vision English Course , (桐原書店)

計 画

第 1 段階	第 2 段階	第 3 段階
平成 2 0 年 6 月 ~ 1 2 月 1 段階的に要約文を書く練習をする。 ・英文並べ替えによる要約	平成 2 1 年 1 月 ~ 3 月 1 パラグラフの要点を把握する練習を行う。 ・パラグラフの主題理解	平成 2 1 年 4 月 ~ 1 1 月 1 要約文作成のための練習を行う。 ・トピック・センテンスを見つける活動 ・パラグラフ間のつながりと役割の考察

完成 ・穴埋めによる要約完成 2 論理展開を示す接続表現を学ぶ。	・トピック・センテンス，サポート・センテンスの抜き出し 2 要約文作成を行う。 ・Q - A によるグループでの要約文作成 ・キーワード提示によるグループでの要約文作成	・接続表現を用いて文をつなぐ活動 ・5 W 1 H を用いた Q - A の作成 2 要約文作成を行う。 ・Q - A による要約文作成 ・キーワード提示による要約文作成 ・パラグラフごとの要点をまとめた要約文作成 3 研究のまとめ
--	---	--

4 研究実践

4.1 要点を捉える指導

4.1.1 パラグラフの主題を把握する指導

パラグラフは筆者の主張のまとめりであり，いくつかのパラグラフが互いに関連しながら文章全体が構成されることを理解する。その際，後（2001）による，計画的，段階的なパラグラフ分析の手法が，パラグラフごとの要旨を把握するのに有効であると考え，以下のような練習を行った。

<練習 1>

次の文の話題(Topic)は何か。また，それについて筆者はどのように述べているか(Assertion)。

Our spring school festival was a great success. It was fine that day. A lot of people came to see our programs. Almost all of them enjoyed the concert, the drama and many other programs. Our school master said, "This year's festival was wonderful."

〔結果・考察〕

トピック・センテンスを見つける練習を繰り返し行うことにより，パラグラフの基本的な構成に習熟することを目的としたこの活動は，生徒にとって取り組みやすく正答率も高かった。

<練習 2>

次のパラグラフのトピック・センテンスを書いてみよう。

There are no clouds in the sky. The breeze is cool. The sun is shining. There are no signs of rain.

〔結果・考察〕

このパラグラフは何について述べているのかを把握する練習である。1 文でまとめることに困難を感じている生徒が多かったが，練習 1，2 を通し，トピック・センテンスの存在を意識することができた。

<練習 3>

パラグラフには，トピック・センテンスを補うサポート・センテンスがある。次の文のトピック・センテンスに下線を引き，サポート・センテンスの文頭に番号をつけなさい。

A university cafeteria should be able to provide meals at a lower cost than private restaurants. The students serve themselves and, when they have finished, take their

dirty dishes back to a special table In this way, the cost of employing staff is reduced because there is no need for waiters. The same numbers of students eat in the cafeteria each day. As a result, the manager can calculate the exact amount of food to buy and very little is wasted. Finally, a university cafeteria makes no profit. This reduces the cost of the meals by at least ten per cent.

〔結果・考察〕

パラグラフには、トピック・センテンス、サポート・センテンス、具体的事項を述べる文があることを理解する練習である。英文の論理展開を理解しやすくするため、以下の定義に基づいて指導した。

トピック・センテンスとは、話題と筆者の主張を含む文である。

サポート・センテンスとは、トピック・センテンスを補う文である。

具体的事項とは、サポート・センテンスを補う文である。

この時点では、サポート・センテンスがいくつあるのかが分かりづらいという感想があった。しかし、これは、生徒が前向きに取り組んでいるがゆえの反応であると考え、さらに練習を繰り返すことによって習熟できることを伝えた。この練習は、要約文を書く際に有効に機能する活動であると考えた。

4.1.2 論理展開を示す接続表現の指導

パラグラフの中では、対比、逆接、具体例、原因、結果などを示す接続表現が用いられている。リーディングの際にそういった表現に目を向けることは、パラグラフ間のつながり、パラグラフの役割を把握する上で有効である。また、論理展開を追うことは、未知語の意味を推測する力の向上にもつながることが期待される。そこで島田、米山（2005）が紹介する以下のような練習を行った。

< 練習 4 >

接続表現に注目し、次の英文の論理展開を完成しなさい。

Recently the number of smokers has been decreasing in many countries. Behind this change, there seems to be an increasing awareness about health. Some countries, however, have been quicker in responding to this tendency, while others have been slower in reacting to the danger of smoking. This might be due to social and cultural differences.

論理展開

() が減少



() が高まっているように思える。



however (逆接)

() がある



while (対比)

() もある



due to (因果)

() が原因

〔結果・考察〕

生徒はこの練習に前向きに取り組み、however の後に重要な情報が続くこと、また、while は 2 つの情報を対比的に提示すること、due to は原因を述べる際に用いることを理解した。事後のアンケート調査で「内容把握に役立った」と答えた生徒が多く、こうした接続表現が要約文を書く際にも利用できることを理解したものと考ええる。

4.2 要約文の書き方の指導

4.2.1 要約文を書くことに慣れるための活動

第 1 段階の活動として、教師の用意したフォーマットに沿って、生徒が要約文を完成する活動を行った。ハードルはそれほど高くはなく、生徒の取り組みも大変前向きであった。

・英文を並べ替えて要約文を完成する練習

生徒が教科書本文の内容を理解した後、教師が作成した要約文を、その要点の順序を変えて提示する。生徒は英文を並べ替えることにより、要約文を完成する。この活動は要約文の形態に慣れることに重点を置く。容易な課題であり、ほとんどの生徒が正解であった。易しい活動から導入することで、生徒のモチベーションを保つ上でも効果があると考ええる。

・空欄（キーワード）を埋めることによって要約文を完成する練習

生徒にとって、文の並べ替えよりも難度が高い練習であり、いくつかの空欄を埋めることのできない生徒もいた。要点を再確認することができ、文の要約に慣れる活動でもある。

4.2.2 要約文作成のための練習課題

天満（1989）は、要約文作成の際に、「文章全体を概観し、詳細部や不要の部分を除いて、簡潔でしかも整合性のある文としてまとめるには、テキストの中で何が重要であるかの判断と共に、有効なストラテジーを必要とする」として、以下のような練習問題を紹介している。本研究においても、要約文を書く際に必要となる言い換え、不必要な語句の省略、長い文の短縮化に慣れるための練習として、この活動を取り入れた。

練習 1 次の下線の語（指示代名詞）は何を指していますか。

練習 2 次のリストの中には、各々のグループを代表する語があります。それを選びなさい。

練習 3 次の文を読んで、下のアウトラインを完成しなさい。

練習 4 英文を主題文、説明文、結論の順に並べ替えなさい。

練習 5 次の英文を読み、トピック・センテンスとサポート・センテンスを抜き出さなさい。

練習 6 次の英文を読み、筆者の主張をできるだけ簡潔にまとめなさい。

〔結果・考察〕

この活動は、第 2 段階、第 3 段階の時期にも継続的に行い、定着を図った。各練習の正解率は高く、事後のアンケート調査でも「取り組みやすい」と答える生徒が多かった。

4.3 要約文を書く指導

4.3.1 グループ活動での要約文作成

教室内のグループ活動について天満は、「生徒は自分の同輩の意見に強い関心を示すし、影響も受けることが多い」と述べている。また、この活動は、個人で行うよりも、その手順を習得する際の負担が少なくすむと考え、グループ活動で行うこととした。

・要点を捉える質問に答えながら、グループで要約文を作成する活動

・提示されたキーワードによって、グループで要約文を作成する活動

事後アンケートでは、「分からないことを友達に納得するまで聞いた」「相談しながら自分以外の意見に触れることができるのでいい」「友達は自分とは違うまとめ方をしているのでその話を聞くことができて楽しい」と答え、約 60%の生徒が効果があると答えている。一方、「分からないところを分かる人が教えてくれるのですっきり解決できてよいが、頼り過ぎてしまう部分もあるので気をつけたい」という意見もあり、次の段階では生徒一人一人が自分の力で行うことを明確に意識することが必要であると感じた。いずれにしても、難しい課題に前向きに取り組む姿勢を作るという意図は概ね達成できたと判断し、第 2 段階のグループでの要約文作成から、生徒一人一人が要約文を作成する第 3 段階へと移行した。

4.3.2 生徒一人一人による要約文の作成

・ Q - A による要約文作成

対象生徒 第 1 学年理数科 39 名

教科書本文 Lesson 9 part 1 Fading Milky Way

“Three ... two... one... Off!” On August 2, 2003, 9,000 people got together in a square in Ishigaki Island to see the Milky Way. When the countdown was over, all the lights on the island went out one after another.

< 中略 >

But as the city grew over the years and artificial lights increased, it became difficult to see the Milky Way. (142 語)

Let's prepare to write a summary! First, answer the following questions.

1. When and where did so many people try to look at the Milky Way?
2. What were they doing?
3. As people's eyes got used to the darkness, what did they see?
4. Could they see many bright stars in the sky?
5. It is usually hard to see the Milky Way in the city. Why?

Write the summary of Part 1, using 5 sentences or more.

〔 生徒要約文 〕

要約例 1

On August 2, 2003, 9,000 people got together in a square on Ishigaki Island. They were trying to see the Milky Way. They could see a big cloud of millions of stars in the sky. It is difficult to see the Milky Way because of artificial lights. (47 語)

要約例 2

On August 2, 2003, in a square on Ishigaki Island, 9,000 people got together. They turned off all the lights to see the Milky Way, a big cloud of millions of stars. They saw many big stars in the sky. But it is usually hard to see the Milky Way in the city, because of the city grew over the years and artificial lights increased. (65 語)

〔 考察 〕

要約例 1 は 4 文 47 語で、要約文としてはやや情報が欠けている。要約例 2 は 5 文 65 語で情報は十分である。Q - A に適切に答えることができた生徒は、何とか要約文を作成できた。要約文を書く手順、英文を書くことに慣れるという点では満足のいくものであった。しかし、質

問の答えをそのままつなぎ、語数が 80 を越えるものが多かったため、要約文に必要な情報と不必要な情報があることを意識するように指導した。

- ・キーワード提示による要約文作成

対象生徒 第 2 学年理数科 40 名

教科書本文 Lesson1 part 1 Go Armstrong

Make every obstacle an opportunity, make every negative a positive My mother raised me with this rule, and this is how I have lived.

< 中略 >

I liked the feeling of being a top junior cyclist in the United States. This was how I started my life with the bike. (173 語)

Using key words, try to make each paragraph shorter.

1st paragraph: make every obstacle, negative, positive

2nd paragraph: in Texas, I grew up

3rd paragraph: get along, stepfather, frustrated, a chance, came across, bike

4th paragraph: keep on, the bike, a top cyclist

〔生徒要約文〕 取消し線、()は教師による加筆

要約例 3

Make every obstacle an oppo(r)tunity, make every negative a positive... this is how he has lived.... When he was a boy in Texas, he didn't get along with his stepfather, which frustrated him.... But he came across a bike and got a chance to get over that problem. Rain or shine, he kept on pedaling the bike.... As a result, he became a top cyclist in the US.

要約例 4

(68 語)

Make every obstacle an opportunity, make every negative a positive... T(t)his is how I have lived.... I grew up in Texas.... When I was a boy, I didn't get along with my stepfather, which frustrated me.... Then I came across my first bike which gave me a chance to get over this problem.... I kept on pedaling the bike any time.... When I was 13, I won a triathlon for young cyclists, and soon after that I won another one.... I liked the feeling of being a top junior cyclist in the United States.

(94 語)

〔考察〕

キーワードを用いたこの方式では、要約例 4 のように、あまり重要ではない情報を付加してしまう傾向がみられた。キーワードから英文を組み立てるのではなく、それを含んだ文章を抜き出していたため、自分で文章を作成するように指導した。要約例 3 は As a result を用いており、論理展開を示す接続表現を用いて要約文を作成するという意図を理解している。しかし、こうした表現を用いてまとめた生徒は 5 名であったことから、接続表現に関しては繰り返し練習を行う必要があることが分かった。

4.3.3 要約文作成活動の仕上げの活動

- ・パラグラフごとの要点をまとめた要約文作成

要約文を書く際に、パラグラフの中で述べられている具体的な事項を省き、できるだけ短くまとめる練習を行った。4.3.2 では単独のパラグラフを用いたが、ここではある程度まとまりの

ある文章を読み，そのうちの 1 つのパラグラフの要点をまとめる練習を行った。文章全体の中でパラグラフが果たしている役割を意識するようになることを目的とした。

〔評価〕

この段階の活動は，これまでの指導の妥当性を検証するとともに，仮説を検証し，指導法改善を図るための資料収集を目的として，生徒の要約文を表 1 の基準によって評価しながら進めることとした。

（表 1）生徒の要約文の評価基準

A	要約文としての確にまとまっている。
B	要約文としての的確さにはやや欠けるが，内容はまとまっている。
C	要約文として必要な情報はほぼ捉えているが，内容がまとまっていない。
D	要約文として必要な情報が不足しており，内容もまとまっていない。

〔考察〕

この段階で行った 3 回の活動で生徒が書いた要約文を，上記評価基準で採点した結果を表 2 にまとめた。実施回によって成績にばらつきがあるのは，題材の難易度の違いによるものと推測される。

生徒はこの活動の感想として，「ひとつの段落を 1 文でまとめるのは言い換え表現や単語が身につく」「重要なところを捉えようとする習慣がついた」と答えており，練習回数を増やして要約文を書くことに慣れれば，要約文として簡潔にまとめる力をつけるなどの効果が見込まれ，自分で文章を作成しようとする態度を育成するために有効な活動であることがわかった。

（表 2）

評 価	第 1 回	第 2 回	第 3 回
A の度数	7	3	8
B の度数	8	17	8
C の度数	18	13	13
D の度数	7	7	11

・ 5 W 1 H を用いた Q - A の作成

4.3.1，4.3.2 で行った質問に答えて要約文を作成する活動では，教師が用意した英語の質問を利用したため，要約のポイントが明確になり，生徒にとって取り組みやすい活動だった。ここでは，生徒自らが質問と答えを用意し，それを生徒同士でやり取りしながら情報の確認を行い，要約文を書く活動を行った。5 W 1 H を意識した質問文を作ろうとすることは，その文章の要点を明確にする効果があった。生徒にはペアワーク，グループ活動に積極的に取り組む姿勢ができていたため，これをクラス内でやり取りすることにより，他者の意見に触れ，自分の意見と同一であれば自信を得，相違点があれば修正できるなどのメリットがあった。

4.1，4.2，4.3 の段階的な指導を通して，生徒は，英文を日本語に置き換えて理解しようとするのではなく，文章の大切な情報を捉えることに意識を集中して内容を理解することができるようになった。そこで，文章の要点に下線を引き，その情報を得るための質問及び答えを生徒が作成し，情報を整理した後に要約文を書く練習を行った。

〔考察〕

この段階で行った 3 回の活動で生徒が書いた要約文を，前述の評価基準で採点した結果を表

3 にまとめた。

短期間に行ったため、教師によるフィードバックの効果が十分に出たかどうかの判定は難しいが、生徒は、要約文を書く際に自己の見直し機能となる活動であることを理解していた。正確な疑問文を作成するには時間がかかるが、ピア・レビューを利用し、生徒間での修正を行い、精度の高い英文を書く意識を持って活動を行うことができた。

また、この活動は、英文作成及びその精度を高める効果が期待できること、文章読解だけではなく、ライティング力の向上にも効果のある活動であることがわかった。

(表 3)

評 価	第 1 回	第 2 回	第 3 回
A の度数	12	4	5
B の度数	13	11	21
C の度数	10	16	12
D の度数	5	9	2

5 研究評価

5.1 仮説 1

英文を読解する際に、各パラグラフの主題を把握し、5 W 1 H の疑問文を作成して答える活動を行えば、文章の概要を捉える力がつくであろう。

5.1.1 評価テスト 1

目標 初見の英文の要約文の作成

題材 実用英語技能検定準 2 級問題

Christmas Fun

These days, children have a choice of many different types of entertainment. They can go to the movies, watch TV, or play video games. Every Christmas in Britain, though, thousands of children go to the theater with their parents to enjoy a traditional type of entertainment called a pantomime.

< 中略 >

Although the basic stories are kept the same, new jokes and songs are used each year. Another is that all pantomimes have one thing that people everywhere love - a happy ending.

(309 語)

手順 速読して内容を理解した上で、段落ごとに要約文を作成し、それらをつなげて全体の要約を完成する。

〔評価 1〕生徒の要約文：取消し線、()は教師による加筆

要約例 5

Every Christmas in Britain thousands of children go to the theater with their parents to enjoy a “pantomime”. The word “pantomime” means one that is full of jokes, which have been performed regularly in British theaters since 19th century.

There are some things that are the same in almost every performance. In addition when people watch pantomimes, they are expected to take part in the performance. Also

the actors often ask people in the audience questions and get them to join in with song(s).

Pantomimes are often performed by groups of amateur actors in school halls and community centers. Pantomimes are still popular today because they can easily be changed so that modern audiences will enjoy them, and because all pantomimes have one thing that people everywhere love... a happy ending. (131 語)

要約例 6

Every Christmas in Britain, thousands of children go to the theater with their parents to enjoy a traditional type of entertainment called a pantomime.

Although there are many pantomime stories, there are some things that are the same in almost every performance such that the audiences take part in it.

In addition, the jokes and songs are changed every year and all pantomimes have happy endings. So pantomimes have continued (will continue) to be popular. (73 語)

〔評価 2〕評価基準を用いた生徒要約文の評価

このテストで生徒が書いた要約文を、前述の評価基準で採点した結果を表 4 にまとめた。

要約例 5, 6 の評価はともに B である。5 には具体的な例が含まれているため、語数が多くなっている。6 は文章を作成する上での間違いがみられるが、短くまとまっており、内容は通じる。評価 A の生徒はいなかったが、全体に生徒の取り組みもよく、要約文にも評価できるものが多かった。

(表 4)

評 価	A	B	C	D
度 数	0	11	23	6

〔評価 3〕生徒の捉えた情報内容の個数による評価

評価 2 と同じ要約文を評価する際に、生徒が捉えるべきポイントとして 10 個の情報内容を設定し、要約文に含まれている情報内容の個数を表 5 にまとめた。

これを見ると、80%を越える生徒が 6 個以上のポイントを含む要約文を作成でき、情報を伝達するという点で評価できる。

(表 5)

個 数	2	3	4	5	6	7	8	9
生徒数	1	0	3	3	17	8	7	1

〔評価 4〕論理展開を表す接続表現の評価

同じ要約文について、論理展開を表す接続表現の使用について調べた結果を表 6 にまとめた。

これを見ると、読解の際には目印となることを理解していても、生徒自身が実際に使用する段階には達していないことがわかった。

(表 6)

個 数	0	1	2	3	4
生徒数	15	8	8	7	2

5.1.2 検証

4.1, 4.2, 4.3 の活動を行い、生徒が英文を理解する際に、各パラグラフのトピックを意識した読解活動をしようとする態度を身につけたことは明白である。要約文を書く活動は、83%の

生徒が難しいと感じている反面，75%の生徒は技能を高めるために効果があると考えている。
4.3.2 の要約文作成よりも難易度の高い，初見の英文の要約文作成にもあきらめることなく，ほとんどの生徒が要約文を完成することができた結果からも，文章の概要を捉える力は確実についたと言える。

評価テスト 1 に関わる評価 1 ～ 4 により，仮説 1 は支持できると考える。ただし，「生徒自身が 5 W 1 H の疑問文を作成して答える活動を行えば」の前提の部分に関しては，この後の 4.3.3 の実践を経た評価テスト 2 ・ 3 で述べることにする。

〔考察〕

今後の指導に向けて，生徒の要約例をプリントにまとめ，評価 C，D の生徒がどのような点に困難を感じているのかを探ってみた。

そうした生徒からは，「どこが重要なのかははっきりと分からないし，要約する時に単語を知らないからうまく表現できない」「重要なところを抜き出せても，それをつなげるための単語がうまく使えない」「すべての文が必要に思えてしまい，選び抜くことがとても難しかった」「質問があると簡単だが，すべて自分でやるのは難しい」などの回答があった。

この中で「重要なところを・・・」，「質問があると簡単・・・」という回答は，以後の指導に生かすべきものであると思われた。短い文を用いて重要な情報を取り出して文章を作る練習，生徒が自分で作った 5 W 1 H の疑問文を利用して要約文を作成する練習などの指導の改良は，ここから生まれたものである。4.3.3 で紹介したように，この活動を要約文を書く段階的な指導の仕上げとして実践し，それによる生徒の変容を評価テスト 2 ・ 3 で検証することとした。

5.2 仮説 2

内容を理解した英文の要約文を書く活動を段階的に指導することにより，初見の英文の要点を把握する力がつくであろう。

5.2.1 評価テスト 2 ・ 3

目標 「初見の英文の要約文の作成」

題材 実用英語技能検定準 2 級問題

評価テスト 2

Guide Horses

Many people know of guide dogs - dogs that are trained to guide people who cannot see. Nowadays, however, dogs are no longer the only animals being trained as guides. Another animal that is starting to be used is the miniature horse.

< 中略 >

Although it may seem a strange idea now, guide horses could perhaps one day become just as common as guide dogs. (300 語)

評価テスト 3

Concrete Tents

Whenever a natural disaster, such as an earthquake or a typhoon, damages people's homes, it becomes necessary to provide people with other places to stay. Up until now, the two main types of shelter used for this purpose have been tents and portable buildings.

< 中略 >

Crawford and Brewin say the shelters last for about 10 years, so communities can use them for a variety of purposes long after a disaster. (306 語)

手順 速読して内容を理解した上で、段落ごとに要約文を作成し、それらをつなげて全体の要約を完成する。

〔評価 1〕生徒の要約文：取消し線，()は教師による加筆

要約例 7

Miniature horses ~~is(are)~~ starting to be used as a guides. A horse trainer Janet Burleson says they can be also ideal guides for the blind. Janet and Don found their horses chose the safest path through crowded places when they were riding them in New York City. She decided to try to train miniature horses as guide horses. Janet trained horses to lead a blind person through a shopping area. Not only do these horses guide blind people when shopping, but they can also (guide) them at night. Guide horses are ideal for people who dislike or are allergic to dogs. (100 語)

要約例 8

Whenever a natural disaster damage people's homes, they used tents and portable buildings to stay other places. But now, two British engineers have come up with a new kind of shelter called Concrete Canvas. The Concrete Canvas is light enough to be carried in a small truck. First, water is added to the cloth, and then air is pumped into the plastic tent. The shelter is then ready to be used.

The shelters are shaped like an egg to make them strong, so they can be used in all kinds of weather conditions. In addition, the shelters are cheaper than ordinary portable buildings. Because of these advantages, the Concrete Canvas help(s) the victims of natural disasters in many parts of the world. It can be used for a variety of purposes long after a disaster. (135 語)

〔評価 2〕評価基準を用いた生徒要約文の評価

このテストで生徒が書いた要約文を、前述の評価基準で採点した結果を表 7 にまとめた。

評価 A，B の人数がやや増加したのに比べ、評価 D の人数が増加した点が残念だが、「どこが書くべきか、どこが書くべきではないかの見極めが難しかった」「すべて例のように見える段落がある」などの生徒の感想から、評価テスト 2 は評価テスト 1 よりも取り組みづらい課題であったようである。その一方、評価テスト 3 における生徒の要約文は、全体的に良くできていた。評価 A，B の人数が増加しただけではなく、自分で文章を作成しようとした跡が見られた。

要約例 7 及び 8 は同一生徒のものである。これを分析すると、要約例 7 は情報が 6 個で評価は B であるのに対して、要約例 8 は語数は多いが、情報が 9 個で評価は A である。要約例 8 の下線部分は、この生徒が情報をまとめ、できるだけ短い文を作成しようとした部分であり、この点を評価したい。

また、評価テスト 2 で評価 B，C だった生徒が、評価テスト 3 で評価 A，B に順調に伸びたわけではないが、的確な要約文を書くことができる生徒が増えてきた。問題は、読解段階でつまづいている評価 D の生徒への対応であり、学習意欲を継続することができるような指導を工夫しなければならない。

(表7)

評 価	A	B	C	D
評価テスト2の度数	2	12	16	10
評価テスト3の度数	5	16	12	7

〔評価3〕生徒の捉えた情報内容の個数による評価

評価2と同じ要約文を評価する際に、生徒が捉えるべきポイントとして10個の情報内容を設定し、要約文に含まれている情報内容の個数を数えた結果を表8にまとめた。

評価テスト2では評価テスト1よりも数値的には下がったが、これは、不必要な情報を減らしてできるだけ簡潔に要約文を書くようにとの指導によって、必要な情報も削ってしまったものと推察される。評価テスト3では、20人を超える生徒が7個以上の情報を取り入れて要約文を作成することができた。

(表8)

個 数	2	3	4	5	6	7	8	9
評価テスト2の生徒数	0	4	9	8	11	5	2	0
評価テスト3の生徒数	0	0	4	5	7	9	12	3

5.2.2 検証

表4及び表7における評価A、Bの人数から、この仮説で設定した活動は、生徒が初見の英文に積極的に取り組む姿勢を維持し、要点を把握する力を向上させる点で有効である。評価テスト2・3に関わる評価1～3により、仮説2は支持できると考える。

「生徒自身が5W1Hの疑問文を作成して答える活動を行えば」の前提の部分に関しては、このことによって生徒が情報の精選を意識することが観察できた。それは表8に見られる把握する情報の減少傾向を招いたものの、本文を抜き出し、そのまま写す傾向が減少したこと、大切な情報を整理しようとしていることを示している点で評価できる。

また、評価テスト2、3において、英文の誤りが増えたことも、生徒が自ら英文を作成しようとしていること、つまり、コミュニケーションの意欲を示しているものと評価できる。

5.3 考察（今後の課題）

要約文を書く活動は生徒にとって負荷のかかる活動であるが、取り組みやすいことから段階的に指導することにより、大きな成果が必ず得られる。多くの要約文作成に取り組むにあたって、継続して行うことにより英語の力がつくと思っていてくれた生徒たちに感謝したい。しかしながら、評価Dをつけざるを得なかった生徒がいることを考え、今後の指導の中でこれまで以上の工夫が必要であることを感じている。

参考文献

天満美智子 『英文読解のストラテジー』（1989）大修館書店

後洋一 『英語の指導・学習のストラテジー』（2001）近代文芸社

島田浩史・米山達郎 『パラグラフ リーディングのストラテジー』（2005）河合出版